

竹沢泰子教授 略歴・著作目録

略 歴

学 歴

1981年3月	筑波大学第二学群比較文化学類卒業 在学中に、文部省奨学生として米国カンザス大学に1年間留学
1981年4月	筑波大学大学院地域研究研究科入学
1982年9月	フルブライト奨学生として米国ワシントン大学大学院人類学研究科に入学
1985年5月	ワシントン大学大学院人類学研究科修士課程修了
1987年3月	筑波大学大学院地域研究研究科修士課程修了
1989年12月	ワシントン大学大学院人類学研究科博士課程修了

学 位

1985年5月	M. A. (ワシントン大学)
1987年3月	国際学修士(筑波大学)
1989年12月	Ph. D. (ワシントン大学)

職 歴

1983年～1987年	ワシントン大学アジア言語・文化学科ティーチング・アソシエイト
1987年～1988年	ワシントン大学人類学科ティーチング・アソシエイト
1990年1月～3月	カリフォルニア大学サンタ・バーバラ校講師
1990年～1993年	筑波大学現代語・現代文化学系専任講師
1990年～2018年	ワシントン大学人類学科協力准教授、のちに協力教授
1993年～1996年	筑波大学社会科学系国際関係学類専任講師
1993年～1994年	カリフォルニア大学ロサンゼルス校人類学科／アジア系アメリカ研究所 人類学研究科客員研究員
1996年～1999年	筑波大学社会科学系国際関係学類助教授
1999年～2023年	京都大学人文科学研究所教員(2005年より教授)
2000年～2023年	京都大学文学研究科協力教員
2005年～2006年	ハーバード大学人類学科客員研究員
2006年1月～6月	マサチューセッツ工科大学(MIT)人類学研究科客員教授(Race and Science 講義担当)
2008年～2010年	京都大学総長補佐
2010年～2013年	京都大学理事補(渉外担当)
2015年9月～12月	ハーバード大学ライシャワー日本研究所客員研究員

人 文 学 報

2016年1月～3月 カリフォルニア大学サンタバーバラ校社会科学客員研究員
2019年6月～現在 コロンビア大学協力研究員
2023年3月 京都大学定年退職・名誉教授称号授与

委員等

日本アメリカ学会理事・副会長（2020年～2022年）
日本移民学会会長（2022年～）
日本文化人類学会会員
日本学術会議
・地域研究委員会多文化共生分科会委員長（2017年～）
・文化人類学分科会委員（2008年～）
・自然人類学分科会委員（2008年～）
Ethnic and Racial Studies（英）理事（2018年～）
アメリカ文化人類学会（米）会員
アメリカ社会学会（米）会員
兵庫県外国人県民共生会議座長（2006年～）
兵庫県県政150周年記念多文化共生記録紙編集委員会編集委員長（2017～2020年）
NPO たかとりコミュニティセンター「多言語センター FACIL」副理事長（2020～2022年）
筑波大学校友会理事（2022年～）
アメリカ研究振興会評議員（2010年～）
日立財団評議員（2022年～）
人間文化研究機構創発センター運営委員（2022年～）

研究代表歴

外部資金獲得状況（代表のみ、その他は省略）
2020年 研究成果公開促進費（学術図書 20HP5104）
2016年～2023年 人種化のプロセスとメカニズムに関する複合的研究（基盤研究(S) No. 16H06320）
2010年～2016年 人種表象の日本型グローバル研究（基盤研究(S) No. 22222003）
2006年～2010年 人種の表象と表現をめぐる融合研究（基盤研究(A) No. 18202029）
2001年～2004年 「人種」の概念と実在性をめぐる学際的基礎研究（基盤研究(B) No. 13410096）
1999年～2001年 社会的構築物としての人種概念に関する理論的考察（基盤研究(C) No. 11610314）
1996年～1999年 「他者」論からみたアメリカ合衆国におけるエスニック・ステレオタイプに関する研究（基盤研究(C) No. 08610313）
2005年～2006年 文部省海外教育研究推進事業（1年3カ月マサチューセッツ工科大学およびハーバード大学にて研修・教育）
2002年 国際シンポジウム「人種概念の普遍性を問う」(International Symposium on the Idea of Race)
京都大学財団シンポジウム開催助成金

竹沢泰子教授 略歴・著作目録

Kyoto University Principal Investigator, Ministry of Education and Science Principal Investigator

国際シンポジウム “Racialization of Body” at IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences), 国際交流基金, 日本民族学会

* 上記以前は省略 (科研費以外に, 経団連, 国際交流基金, トヨタ財団等)

受賞歴等

- | | |
|-------|--------------------------------|
| 1995年 | 第24回澁澤賞 (日本民族学会, 現日本文化人類学会) 受賞 |
| 1995年 | 米国 ヴィクター・ターナー賞最終候補 (アメリカ民族学会) |
| 1994年 | アメリカ研究振興会出版助成 |

主要業績

単著・編著書等

- ・ *Visibilities and Invisibilities of Race and Racism*, ed. Yasuko Takezawa, Faye V. Harrison, and Akio Tanabe. London: Routledge, fall 2023 upcoming.
- ・ 『アメリカの人種主義——カテゴリー／アイデンティティの形成と転換』名古屋大学出版会, 2023年.
- ・ Special Issue on Genetics, DTC, and Their Social Implications, *Anthropological Science* 131 (1), January 2023.
- ・ *Race and Migration in the Transpacific*, ed. Yasuko Takezawa and Akio Tanabe. London: Routledge, 2023.
- ・ 『人種主義と反人種主義～越境と転換』竹沢泰子, ジャン=フレデリック・ショブ編, 京都大学学術出版会, 2022年.
- ・ *Circulations et Métamorphoses du Racism et de L'antiracisme, POLITIKA “La race objet des sciences sociales, un dialogue franco-japonais,”* ed. Yasuko Takezawa et Jean-Frédéric Schaub. Paris: École des hautes études en sciences sociales, 2021.
- ・ 『百花繚乱——ひょうごの多文化共生 150年のあゆみ』(兵庫県制150年記念刊行事業) 竹沢泰子・樋口大佑・兵庫県国際交流協会編, 神戸新聞総合印刷, 2021年
- ・ 『環太平洋地域の移動と人種——統治から管理へ, 遭遇から連帯へ』田辺明生・竹沢泰子・成田龍一編, 京都大学学術出版会, 2020年.
- ・ Special Issue: Trans-Pacific Japanese Diaspora Art: Encountering and Envisioning Minor-Transnationalism, ed. Yasuko Takezawa and Laura Kina, *Asian Diasporic Visual*

Cultures and the Americas 6(1/2), 2020.

- ・『人文学報 特集：人種主義・反人種主義の越境と転換』第114号，竹沢泰子/ジャン=フレデリック・ショブ編，京都大学人文科学研究所，2019年。
- ・Amerasia Forum: Trans-Pacific Japanese Diaspora Art: Encounters and Envisions of Minor-Transnationalism, ed. Yasuko Takezawa and Laura Kina, *Amerasia Journal* 45(3), 2019, pp. 373-403.
- ・『新装版 日系アメリカ人のエスニシティ —— 強制収容と補償運動による変遷』東京大学出版会，2017年。
- ・*Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations*, ed. Yasuko Takezawa and Gary Y. Okihiro. Honolulu: University of Hawai'i Press, 2016.
- ・シリーズ『人種神話を解体する』全3巻（竹沢泰子責任編集）
第1巻『可視性と不可視性のはざま』齊藤綾子・竹沢泰子編，東京大学出版会，2016年。
- ・第2巻『科学と社会の知』坂野徹・竹沢泰子編，同上。
- ・第3巻『「血」の政治学を越えて』川島浩平・竹沢泰子編，同上。
- ・BBC（日本語字幕版監修：竹沢泰子）DVD『人種主義の歴史（原題：Racism-A History）』丸善出版株式会社，2015年（原版2007年）
- ・*Racial Representations in Asia*, ed. Yasuko Takezawa. Kyoto/Melbourne: Kyoto University Press/ Trans Pacific Press, 2011.
- ・『人文学報 特集：差異の表象』第100号，竹沢泰子編，京都大学人文科学研究所，2011年。
- ・『移民研究と多文化共生』日本移民学会編（編集委員長：竹沢泰子）御茶の水書房，2011年。
- ・『人種の表象と社会的リアリティ』竹沢泰子編，岩波書店，2009年。
- ・『文化人類学 特集：多文化共生と文化人類学』74巻1号（編集委員長：竹沢泰子）日本文化人類学会，2009年。
- ・『人種概念の普遍性を問う —— 西洋的パラダイムを超えて』竹沢泰子編，人文書院，2005年。
- ・*Breaking the Silence: Redress and Japanese American Ethnicity*. Ithaca: Cornell University Press, 1995.
- ・『日系アメリカ人のエスニシティ —— 強制収容と補償運動による変遷』東京大学出版会，1994年。

主要論文

- ・ “Preface to the Special Issue on Genetics, DTC, and Their Social Implications,” *Anthropological Science* 131(1), January 2023, pp. 1-2.
- ・ “Comparing direct-to-consumer genetic testing services in English, Japanese, and Chinese Websites” (co-authored with Kentaro Nagai, Mikihito Tanaka, Alessandro R. Marcon, Ryuma Shineha, Katsushi Tokunaga, and Timothy Caulfield), *Anthropological Science* 131(1), January 2023, pp. 3-13.
- ・ 「移民研究の可能性 —— トランスパシフィック 研究の視点から」『移民研究年報』28号 (2022年6月)
- ・ “Theorizing People of Mixed Race in the Pacific and the Atlantic” (co-authored with Stephen Small), *Social Sciences* 11(3), 2022, 124 (online).
- ・ “Japan’s Modernization and Self Construction Between White and Yellow.” In *The Routledge Handbook of Critical Studies in Whiteness*, eds. Shona Hunter and Christi van der Westhuizen. London : Routledge, 2021, pp. 160-70.
- ・ “RACE, CIVILISATION AND THE JAPANESE : Textbooks During the Meiji Period (RACE ET CIVILISATION AU JAPON: Les manuels scolaires à l’ère Meiji),” *POLITIKA*, Paris : École des hautes études en sciences sociales, 2021 (online).
- ・ 「人種と人種差別 —— 自然人類学と文化人類学の対話から」『人間の本质にせまる科学 —— 自然人類学の挑戦』井原泰雄・梅崎昌裕・米田穰編, 東京大学出版会, 2021年, 237-250頁.
- ・ 「中世におけるユダヤ人・「ジプシー」・河原者をめぐる「特権」言説」『部落解放研究』213号 (2020年), 116-149頁.
- ・ 「『人種』とヒトの多様性 —— 学校でのまなびのために ——」『「人種」「民族」をどう教えるか —— 創られた概念の解体をめざして ——』中山京子ほか編, 明石書店, 2020年, 22-30頁.
- ・ “Trans-Pacific Minor Visions in Japanese Diasporic Art” (co-authored with Laura Kina), in Special Issue : Trans-Pacific Japanese Diaspora Art : Encountering and Envisioning Minor-Transnationalism, ed. Yasuko Takezawa and Laura Kina, *Asian Diasporic Visual Cultures and the Americas* 6(1/2), 2020, pp. 1-10.
- ・ “Major- and Minor-Transnationalism in Yoko Inoue’s Art : Power Dynamics and Practices of Co-production,” *ibid.*, pp. 27-47.
- ・ “Racialization and Discourses of ‘Privileges’ in the Middle Ages : Jews, ‘Gypsies,’ and Kawaramono,” *Ethnic and Racial Studies* 43(16), pp. 193-210.

- (同日本語長編版)「中世におけるユダヤ人・「ジプシー」・河原者をめぐる「特権」言説」『部落解放研究』213号(2020年), 116-149頁.
- ・「「ほどく」「つなぐ」が生み出すマイナー・トランスナショナリズム——井上葉子とジーン・シンの作品と語りから」田辺明生・竹沢泰子・成田龍一編『環太平洋地域の移動と人種——統治から管理へ、遭遇から連帯へ』京都大学学術出版会, 2020年, 361-408頁.
 - ・「明治期の地理教科書にみる人種・種・民族」『人文学報』第114号(2019年), 205-238頁.
 - ・“Antiracist Knowledge Production: Bridging Subdisciplines and Regions,” *American Anthropologist* 119 (3), September 2017, pp. 538-40.
 - ・「試論 差異と差別の(不)可視化をめぐって」斉藤綾子・竹沢泰子編『人種神話を解体する1:可視性と不可視性のはざままで』東京大学出版会, 2016年, 249-264頁.
 - ・「日本におけるゲノム研究と集団の表象——座談会」(太田博樹・加藤和人・竹沢泰子・徳永勝士)坂野徹・竹沢泰子編『人種神話を解体する2:科学と社会の知』東京大学出版会, 2016年, 273-299頁.
 - ・「ミックスレイス日系人アーティストの作品と語り——人種カテゴリをめぐる解釈と表現の戦略」川島浩平・竹沢泰子編『人種神話を解体する3:「血」の政治学を越えて』東京大学出版会, 2016年, 249-274頁.
 - ・“Rethinking ‘Race’ from Asian Perspectives.” In *Ethnicity as a Political Resource*, Transcript Verlag (Bielefeld, Germany), 2016, pp. 75-84.
 - ・“Introduction” (with Gary Y. Okihiro). In *Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations*, ed. Yasuko Takezawa and Gary Y. Okihiro. University of Hawai‘i Press, 2016, pp. 1-10.
 - ・“Shifting Grounds in Japanese American Studies: Reconsidering ‘Race’ and ‘Class’ in a Trans-Pacific Geopolitical-Historical Context,” *ibid.*, pp. 13-35.
 - ・“Negotiating Categories and Transforming (Mixed-) Race Identities: The Art and Narratives of Roger Shimomura, Laura Kina, and Shizu Saldamando,” *ibid.*, pp. 60-90.
 - ・“Toward More Equal Dialogue,” *ibid.*, pp. 396-400.
 - ・戦後70年関連企画「日系アメリカ人の経験と向き合う:戦前・戦中から現在まで」『季刊民族学』第39巻4号(2015年), 61-76頁.
 - ・“Translating and Transforming ‘Race’: Early Meiji Period Textbooks,” *Japanese Studies* 35 (1), Special Issue: Rethinking Race and Racism in Japan, 2015, pp. 5-21.
 - ・“Rethinking Race and Racism in and from Japan” (with Koichi Iwabuchi), *ibid.*, pp. 1-3.
 - ・“Human Genetic Research, Race, Ethnicity and the Labeling of Populations: Recom-

- mendations based on an interdisciplinary workshop in Japan” (co-authored with Kazuto Kato, Hiroki Oota, Timothy Caulfield, et al.), *BMC Medical Ethics*, 15(33), April 2014.
- ・「皮膚の色が意味するもの——人種と人種主義」国際シンポジウム報告書Ⅲ『“からだ”が語る人類文化——形質から文化まで——』国際常民文化研究機構・神奈川大学日本常民文化研究所, 2012年, 21-26頁.
 - ・“Problems with the Terms: ‘Caucasoid,’ ‘mongoloid’ and ‘Negroid,’” *ZINBUN*, no. 43 (2012), pp. 61-68.
 - ・“Introduction.” In *Racial Representations in Asia*, ed. Yasuko Takezawa. Kyoto University Press, 2011, pp. 1-6.
 - ・“Toward a New Approach to Race and Racial Representations: Perspectives from Asia,” *ibid.*, pp. 7-19.
 - ・“New Arts, New Resistance: Asian American Artists in the ‘Post-race’ Era,” *ibid.*, pp. 93-123.
 - ・「序論 移民研究から多文化共生を考える」日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房, 2011年, 1-17頁.
 - ・「近代と人種の生成」本多俊和(スチュアート ヘンリ)・大村敬一編『グローバリゼーションの人類学——争いと和解の諸相——』放送大学教育振興会, 2011年, 57-70頁.
 - ・「現代におけるグローバリゼーションと人種」同上, 71-87頁.
 - ・「アメリカ人類学にみる進化論と人間の「差異」太平洋を横断した人種論」『現代思想』37巻5号(2009年), 202-220頁.
 - ・「総論: 表象から人種の社会的リアリティを考える」竹沢泰子編『人種の表象と社会的リアリティ』岩波書店, 2009年, 1-26頁.
 - ・「ポスト多文化主義における人種とアイデンティティ——アジア系アメリカ人アーティストたちの新しい模索」同上, 266-290頁.
 - ・「序——多文化共生の現状と課題」『文化人類学』74巻1号別冊(2009年), 86-95頁.
 - ・“‘Tabunka Kyōsei’ and Community: Rebuilding after the Kobe Earthquake.” In *Multiculturalism in the New Japan: Crossing the Boundaries Within*, ed. Nelson H. H. Graburn et al. New York: Berghahn Books, 2008, pp. 32-42.
 - ・“Toward a New Kind of Collectivity in American Studies,” *Nanzan Review of American Studies*, vol. 30 (2008), pp. 75-81.
 - ・「多文化共生社会に向けてのパートナーシップ——兵庫県における自治体とNGOの協働の歩み」黒川みどり編『〈眼差される者〉の近代』解放出版社, 2007年, 251-281頁.
 - ・『『外国人』としての日本人——多文化共生をめざす震災後の神戸のなかで』レーン・ヒ

- ラバヤシほか編『日系人とグローバリゼーション 北米, 南米, 日本』人文書院, 2006年, 467-493頁.
- ・「『人種』は存在するか」「現代の人種差別」綾部恒雄・桑山敬巳編『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房, 2006年, 72-75頁.
 - ・「フィールドノートから」奥田道大・松本康監修, 広田康生ほか編『先端都市社会学の地平』ハーベスト社, 2006年, 263-276頁.
 - ・「総論: 人種概念の包括的理解に向けて」竹沢泰子編『人種概念の普遍性を問う——西洋的パラダイムを超えて』人文書院, 2005年, 9-109頁.
 - ・「人種 いま再び問う」山下晋司編『文化人類学入門 古典と現代をつなぐ20のモデル』弘文堂, 2005年, 80-91頁.
 - ・「アジア系アメリカ人のアソシエーション 日系市民協会・百人会」綾部恒雄監修・編『結社の世界史5 クラブが創った国アメリカ』山川出版社, 2005年, 266-275頁.
 - ・“Transcending the Western Paradigm of the Idea of Race,” *The Japanese Journal of American Studies*, no. 16 (2005), pp. 5-30.
 - ・「アイデンティティ・ポリティクスのジレンマ——アメリカ合衆国の現在——」梶田孝道編『新・国際社会学』名古屋大学出版会, 2005年, 220-237頁.
 - ・「大震災とエスニック関係の変化」『GONGO』——震災が生んだ多文化共生に向けての自治体・NGOの連帯」財団法人阪神・淡路大震災記念協会編『21世紀文明の創造 調査研究事業 研究報告書(第四部会) 大震災とエスニック関係の変化【多文化共生研究会】』財団法人阪神・淡路大震災記念協会, 2005年, 1-26頁.
 - ・「アメリカ合衆国——揺らぐ境界・揺らがぬ境界」青柳真智子編『国勢調査の文化人類学』古今書院, 2004年, 273-294頁.
 - ・「人種とアメリカ人類学」綾部恒雄編『文化人類学のフロンティア』ミネルヴァ書房, 2003年, 3-30頁.
 - ・「アメリカ人類学にみる進化論と人種」阪上孝編『変異するダーウィニズム——進化論と社会』京都大学学術出版会, 2003年, 452-489頁.
 - ・“Nikkeijin and ‘Multicultural Coexistence’ in Japan: Kobe after the Great Earthquake.” In *New Worlds, New Lives: Globalization and People of Japanese Descent in the Americas and from Latin America in Japan*, ed. Lane Ryo Hirabayashi et al. Stanford University Press, 2002, pp. 310-30.
 - ・“The Great Hanshin-Awaji Earthquake and Town-Making Towards Multiculturalism,” *ZINBUN* 34(2), 2000, pp. 87-99.
 - ・「アメリカ合衆国におけるアジアとヨーロッパ——アジア移民とヨーロッパ系アメリカ

- 人の遭遇と葛藤——」『岩波講座 世界歴史』23巻, 岩波書店, 1999年, 111-134頁.
- ・“Racial Boundaries and Stereotypes: An Analysis of American Advertising,” *The Japanese Journal of American Studies*, no. 10 (1999), pp. 430-50.
 - ・「『人種』 生物学的概念から排他的世界観へ」『民族学研究』63巻4号 (1999年), 430-450頁.
 - ・「グローバリゼーションと移民研究」『移民研究年報』5号 (1998年), 68-81頁.
 - ・「西欧中心的人種分類の脱構築に向けて」(青柳真智子編「いま人種・民族の概念を問う」)『民族学研究』62巻1号 (1997年), 106-108頁.
 - ・“Multiculturalism and Citizenship: The Effects of the 1996 Immigration Laws.” In *Diversified Migration Patterns of North America: Their Challenges and Opportunities*, ed. Kitagawa Otsuru Chieko. JCAS Symposium Series 4 Population Movement in the Modern World II, 1997, pp. 237-60.
 - ・「アジア人移民の帰化権問題と『人種』」三輪公忠編『日米危機の起源と排日移民法』論創社, 1997年, 219-255頁.
 - ・「アメリカ合衆国におけるエスニック集団の統合化——汎エスニシティの形成」ハラルド・クラインシュミット/波多野澄雄編『国際地域統合のフロンティア』彩流社, 1997年, 231-251頁.
 - ・「『白人』と『黒人』の間で——日系アメリカ人の自己と他者——」青木保ほか編『講座 文化人類学 第7巻——移動の民族誌——』岩波書店, 1996年, 263-292頁.
 - ・「アメリカ文化人類学の現在」祖父江孝男編『文化人類学』放送大学, 1996年, 167-182頁.
 - ・「トランスナショナルな移動と文化摩擦の重層化——日系企業とアフリカ系アメリカ人の相互関係の実態——」『社会学ジャーナル』(筑波大学社会学研究室紀要)21号 (1996年), 14-27頁.
 - ・「人種差別」と“レーシズム”をめぐる日米比較に向けて」『社会学ジャーナル』(筑波大学社会学研究室紀要)20号 (1995年), 113-122頁.
 - ・「『オリエンタル』から『アジア系アメリカ人』へ」*ALA Journal* (アジア系アメリカ文学研究会) 創刊号 (1994年), 9-14頁.
 - ・「アメリカにおける帰化権からみた人種概念—考察」『史境』19号 (1994年), 36-48頁.
 - ・“Rebuilding Los Angeles and Philanthropic Activities by Japanese-Affiliated Companies: A Preliminary Report”『社会学ジャーナル』(筑波大学社会学研究室紀要)19号 (1994年), 44-56頁.
 - ・「日系アメリカ人におけるエスニシティ再生とアメリカ化」『アメリカ研究』27号 (1993

年), 171-188 頁.

- ・“San Francisco’s Chinatown: Its Social Changes after the 1965 Immigration Law.” In Proceedings of Symposium: *Continuity and Change in Overseas Chinese Communities in the Pan-Pacific Area*, ed. T. Ayabe and M. Onozawa. University of Tsukuba, 1993, pp. 205-24.
- ・「サンフランシスコにおけるチャイナタウン——1965年移民法改正後の社会変化」綾部恒雄・小野沢正喜編『環太平洋地域の華僑社会における伝統と変化』筑波大学天禄基金華僑研究グループ, 1993年, 207-225頁.
- ・「ピューリタンの夢——アングロサクソン文化」「太平洋に架ける橋——日本・中国・韓国系文化」綾部恒雄編『アメリカの民族』弘文堂, 1992年, 38-63, 246-264頁.
- ・「日米関係の社会的・文化的副産物——第二次世界大戦と貿易摩擦下での日系アメリカ人の地位と意識——」『外交時報』No.1283(1991年), 35-51頁.
- ・“Children of Inmates: The Effects of the Redress Movement among Third Generation Japanese Americans,” *Qualitative Sociology* (U.S.A.), vol. 14, 1991, pp. 39-56.
- ・「日系アメリカ人における『伝統の創出』とエスニシティ」『史境』19号(1989年), 53-66頁.
- ・「アフロアメリカ研究の最近の動向——アフロセントリック理念からの文化論を中心に」『アメリカ研究』23号(1989年), 165-174頁.
- ・「アメリカ合衆国におけるステレオタイプとエスニシティ——広告とジョークにみられる民族像」『民族学研究』52巻(1987年), 363-390頁.
- ・「サンフランシスコにおける日系人コミュニティ組織の生成過程からみる一考察」『社会科学研究年報 シンポジウム「海外における日本人: 移住・定住・企業活動」』(龍谷大学) 12号別冊(1982年), 90-100頁.

その他

- ・「人種と民族」「人種主義と反人種主義」『フィールドから地球を学ぶ』横山智・湖中真哉他編, 古今書院, 2023年.
- ・Book Review of *In Search of Our Frontier: Japanese America and Settler Colonialism in the Construction of Japan’s Borderless Empire*, by Eiichiro Azuma, *Ethnic and Racial Studies*, 44(3), 2021 (online).
- ・「ブラック・ライブズ・マターと日本すべての人にとっての人種問題とは」『TOKYO 人権』第89号, 公益財団法人東京都人権啓発センター, 2021年.
- ・「米国の黒人暴行死の背景と反人種差別運動」『商工ジャーナル』10月号(2020年), 48-

51 頁.

- ・「センサス」「多文化主義」『アメリカ文化事典』（アメリカ学会編）丸善出版，2018 年，170-171，262-263 頁.
- ・「日系アメリカ人の強制収容と補償運動」多民族共生人権教育センター編『メーレック・ブックレット VOL.6』，2016 年，54-64 頁.
- ・「近代日本における移民と人種主義」『人の移動事典——日本からアジアへ・アジアから日本へ』（吉原和男編集代表）丸善出版，2013 年.
- ・「日本人移民の歴史と多文化共生社会の明日」京都大学附属研究所・センターシンポジウム報告書Ⅲ『京都からの提言——21 世紀の日本を考える（第 7 回）「明日の社会の未来像」』京都大学経済研究所，2013 年，63-76 頁.
- ・“Race in Asia” “Japan’s Minority Groups.” In *Encyclopedia Britannica’s Guide to Black History*, 2010 (on line, selected in Editor’s Choice).
- ・「現代人の起源」「人種とエスニシティ」「移民国家アメリカ」『文化人類学事典』（文化人類学会編）丸善出版，2009 年，98-99，132-135，312-313 頁.
- ・「兵庫県における多文化共生施策——評価と政策提言」『財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究年報』第 13 卷（2007 年），49-62 頁.
- ・「検証テーマ：外国人県民支援のしくみづくりと地域の国際化の推進」『復興 10 年総括検証・提言事業 最終報告』兵庫県復興企画課，2005 年，1-49 頁.
- ・「人種とエスニシティ」ほか『文化人類学文献事典』（小松和彦ほか編）弘文堂，2004 年.
- ・「国内植民地主義」「人種とヒトゲノム」綾部恒雄編『文化人類学 最新述語 100』弘文堂，2002 年，66-67，94-95 頁.
- ・「アメリカ合衆国の国勢調査：その歴史的变化と最新の人種分類」『国勢調査・法制度に見られる人種・民族分類の比較研究』平成 11-13 年度科学研究費補助金（B-1）研究成果報告書（研究代表者：青柳真智子），2002 年，73-81 頁.
- ・「アメリカ人類学にみる進化論と人種学」『「進化論」受容の社会的・文化的文脈にかんする学際的・比較研究』平成 12-13 年度科学研究費補助金（B-2）研究成果報告書（研究代表者：阪上孝），2002 年，97-119 頁.
- ・「ギリシャ系アメリカ人」ほか『世界民族事典』（綾部恒雄監修）弘文堂，2000 年.
- ・「写真花嫁」ほか『日本民俗大辞典』（福田アジオほか編）吉川弘文館，1999 年.
- ・“The Great Kobe Earthquake and Foreign Residents: Multicultural Coexistence in the New Concept of Local Community.” 駒井洋編『新来外国人の行政需要と自治体の国際化施策との関連に関する研究』平成 8-10 年度科学研究費補助金（基盤研究(B)(2)）研究成果報告書，1999 年，2-15 頁.

- ・「日系アメリカ人」ほか『世界民族問題辞典』（梅棹忠夫監修）平凡社，1995年.
- ・「エスニシティ」「コミュニティ」移民研究会編『日本の移民研究』日外アソシエーツ，1994年，63-70頁.
- ・「日系企業とアフリカ系アメリカ人をめぐる諸問題」橋本晃和編『地域レベルで国際化が進展している中での海外進出した日系企業の現地雇用者の意識構造の変化とその企業の地域定着に関する調査研究』雇用促進事業団，1994年，251-260頁.
- ・「サウスホール『都市人類学』」「グレイザー／モイニハン『人種のるつぼを越えて』」綾部恒雄編『文化人類学の名著50』平凡社，1994年，389-395，411-417頁.

その他 報告書等省略